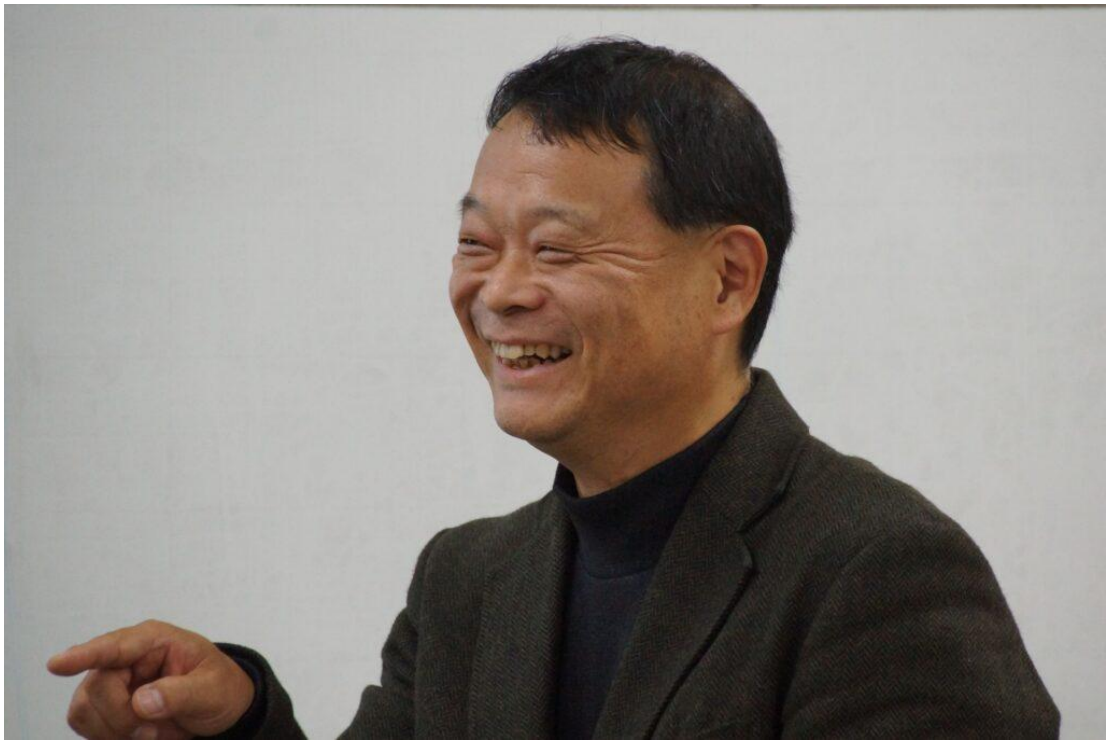
おおつ市民環境塾 2025 講座 9「琵琶湖の在来魚の産卵環境を考える」を開催しました！

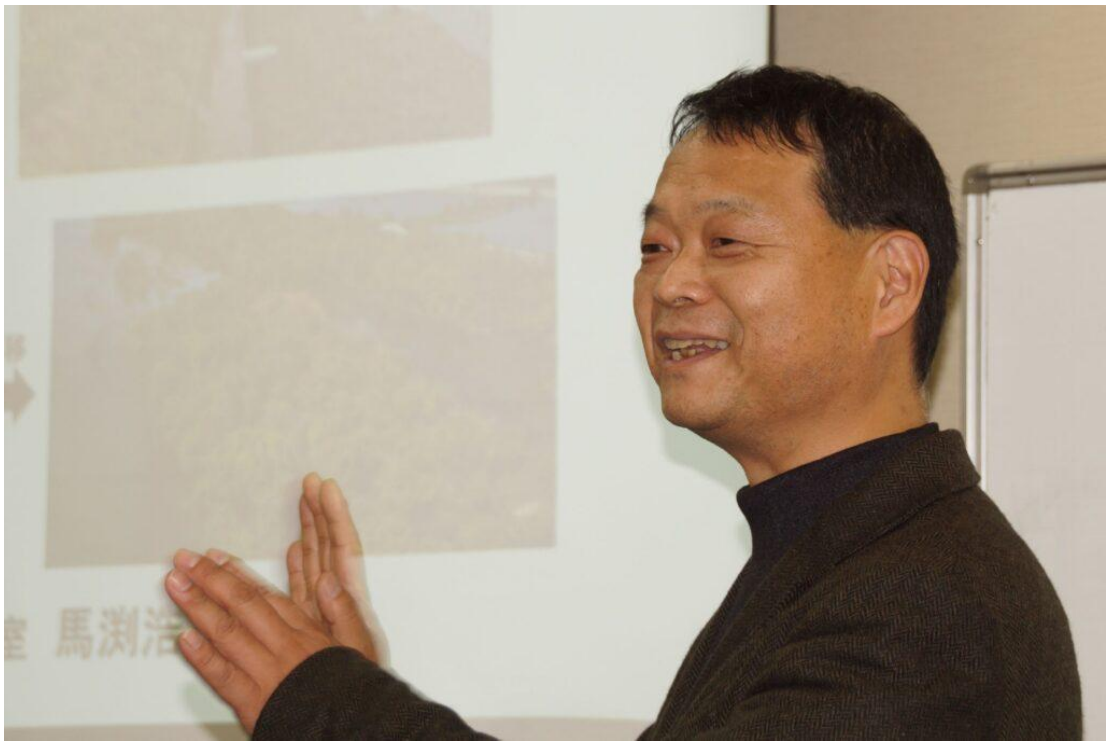
11 月 29 日（土)、明日都浜大津にて、おおつ市民環境塾講座 9「琵琶湖の在来魚の産卵環境を考える」を開催しました 。

かつて食卓を彩ったホンモロコやフナなどの在来魚たち。近年その数が減ってしまった大きな原因の一つに、「産卵環境」の変化があるそうです 。
今回の講座では、国立環境研究所琵琶湖分室の馬渕浩司さんを講師にお迎えし、最新の調査結果をたっぷりとお話しいただきました 。



琵琶湖湖岸の各所に産み付けられた卵を魚種別に調査、DNA で魚種を特定し、GPS で産卵場所を地図に落とし込む。
また、琵琶湖を自由に泳ぎ回るコイの背中に動物搭載型のビデオカメラをとりつけて「コイ目線の」琵琶湖の水中映像を撮ってもらい、より多くの情報を得ている。と、本当に驚きの連続でした！
その結果、ニゴロブナはヨシの間、ホンモロコはヤナギの根元……というように、魚の種類によって「お気に入りの産卵場所」が違うことがわかってきたそうです 。
こちらの魚卵散布の調査結果や、コイ目線の琵琶湖の様子はデータベース化し公開されています。
国立環境研究所　琵琶湖分室 https://www.nies.go.jp/biwakobranch/index.html

琵琶湖総合開発に伴い人工造成されたヨシ帯では、ヨシが育つにつれヤナギもまた繁茂し、数年後には一見自然にできたかのようなヨシ帯になります。しかし、その波打ち際ではホンモロコの卵はなく、多くの魚種が産卵する自然にできたヨシ帯とは少し違った様相になるようでした。
参加された皆さんからは「データに基づいた話で、次に取るべき行動が見えてきた」「実際に現地を見たくなった」といった熱い感想をたくさんいただきました 。



琵琶湖は私たち人間にとっても重要な湖です。梅雨や台風などの時期には水害対策に水位を調節するなどし、どうしても湖魚の産卵環境に大きな影響を与えてしまいます。
魚たちのにぎわいを取り戻すために、私たちに何ができるのか。琵琶湖の未来について、じっくりと考える日となりました。